

流行ニュース:

< デング熱、インドネシア >

2004年1月1日から3月3日まで、インドネシアの保健省は367例の死亡を含む23,857例の入院させられたデング熱疑い例を報告した。¹ 全4種類の血清型が存在しているが、Den-3が最も流行している血清型である。保健局はこの流行の原因であるウイルス種を特定する業室テストを行っている。地方の保健局は、幼虫駆除や空中散布、防御法を地域社会に認知させること、家の中や周辺で蚊の繁殖を防ぐ行動を含む徹底的な媒介動物のコントロール活動を行っている。参照: ¹No10,2004,p.93

< 黄熱、リベリア >

2004年3月3日現在、8例の死亡を含む全33例の黄熱疑い例が5州からWHOに報告された。これらのうちBong州の2例、Nimba州の2例がパスツール研究所で確定診断を受けた。2月26日、第1回の緊急大規模予防接種キャンペーンがBong州の国内避難民キャンプで始まり、そのうち42%(72,000人)が3月1日までに予防注射を受けた。次の数週間でNimba州でもキャンペーンが始まる予定である。

今週の話:

< 国際ポリオ研究所ネットワーク第9回非公式協議会、2003年9月8-10日、WHO本部、ジュネーブ、スイス >

* 結論: 国際ポリオ研究所ネットワークはポリオ根絶計画に対する高いレベルの技術援助を提供している。ネットワークメンバーが直面した課題は、同一血清型内鑑別(ITD)の結果のための報告時間の削減、ワクチン由来のポリオウイルス(VDPVs)の迅速な発見と特定を行い、ポリオウイルス分離株のタイムリーな送り出すことである。ネットワークは野生型ポリオウイルス封じ込めを達成するための活動へのガイダンスの提供や技術支援などの重要な役割も果たしている。

非流行地や最近の流行地域での経口ポリオワクチン(OPV)の補足的な予防接種活動(SIAs)を減らす計画は、感受性人口やVDPV発生の可能性を増すだろう。SIAsの削減計画による危険性を考えると、野生型ポリオウイルスの輸入やVDPV流行を速やかに発見する能力を維持するために、急性弛緩性麻痺(AFP)に対する質の高い監視や研究所での野生株の封じ込めがされなければならない。

* 勧告:

一般

1. WHO研究所のコーディネーターは継続して問題を持つ国を確認し、何が問題かを特定する事を勧めている。

2. WHO地域事務所はVDPV特定の新しい指標を反映した研究所の週報を修正するべきである。

会議2. 流行地域でのウイルス監視と分子疫学

3. 中央の研究所とレファレンス研究所との間で時折矛盾した結果が出ることもあるが、そのような時は両方のオリジナル株や標本を速やかに分析するべきである。

会議3. ポリオのない地域での関心事

4. 野生型ポリオウイルスの輸入とVDPVsの速やかな発見を確実にするために、監視と研究所の調査の全側面において高い基準が維持されなければならない。

5. WHOは中国の地域レファレンス研究所で得られた結果を有効にするための手段を実行すべきである。

会議4. 研究所の業績と質の保証の監視

6. 改訂版ポリオ研究所マニュアルは2003年末までに全ネットワーク研究所に配布されるべきである。

7. 非急性弛緩性麻痺が原因のポリオウイルスの報告を組み込むべきである。

8. 一貫性を得るために研究所への矛盾するメッセージは避け、追跡調査を向上させるためにWHOコーディネーターは毎年特定の研究所に同じ鑑定人を置くよう考慮するべきである。

9. 地域の研究所のコーディネーターは研究所の顕著な欠陥を認識し、適切に調査、解決しなければならない。

10. 認定のための研究所評価をする際の質を保証する訓練基準が鑑定人に提供されるべきである。

会議5. ポリオウイルスの特徴付け

11. 新技術が開発されつつあり、操作上の問題を評価するための検討がなされるべきである。

会議6. ワクチン由来のポリオウイルス

12. WHOはVDPV発見に相応する指針を早く開発して広めるべきである。

13. ITDの結果が一致しない報告書は、仕上げてWHO地域事務所と研究所に周知させるべきである。

14. VDPV発見のためのネットワークの方策は感度や特異性を文書で裏付けることにより評価される。

会議7. インドでのリファレンス株(MEF-1)の特定

15. リファレンス株やワクチン産生に使われた歴史的なポリオウイルス株は指定された研究所で保持されるべきである。

会議 8 . ポリオウイルスの研究室での封じ込め

- 16 . WHO 地域事務所は野生型ポリオウイルスの研究室での封じ込めに対する長期的責任を負うことで中央政府を助けるべきである。
- 17 . 野生型ポリオウイルスの感染材料を持つ地域の研究所一覧を正式に作るべきである。
- 18 . 「野生型ポリオウイルスの研究室での封じ込めにおける世界的活動計画」第 2 版は認識度を上げるために広く配布されるべきである。
- 19 . 地域の検査依頼は国全体の封じ込めチームに広めていくべきである。

会議 9 . ウイルスの貯蔵により引き起こされる封じ込めの危険性と職業上の曝露からの防護

- 20 . 間違っ て分類されたり誤認されたウイルスの貯蔵や野生型ポリオウイルスによる汚染は野生型ポリオウイルスの封じ込めにおける危険性を表している。
- 21 . WHO はポリオウイルスにさらされた研究者の免疫指針を開発する小グループを召集すべきである。
- 22 . 野生型ポリオウイルス株の研究所での保持による非常事態への対応を指針に含むべきである。

会議 10 . ポリオ研究所ネットワークと他の公衆衛生研究所間で活動やプログラムの共有を強くすること

- 23 . WHO は公衆衛生研究所ネットワーク間の協力を勧め続けるべきである。
- 24 . WHO ポリオ封じ込めプログラムとバイオセーフティグループは共通の分野を確認するための計画を作るべきである。

会議 11 . ポリオ研究所ネットワークの戦略計画

- 25 . WHO は 2004 年-2008 年までの 5 年間でポリオ根絶の戦略計画を確実にするべきである。

< 世界的な結核コントロール、2004 年 >

2004 年 3 月 24 日の世界結核デーに、世界的な結核コントロールについての WHO 年報第 8 号がデリーで行われる Stop TB のパートナーのフォーラムで発刊されるだろう。その報告は 201 ヶ国の結核コントロール計画 (NTPs) からの症例の届出と治療結果のデータを含み、計画の分析と共に予算、支出、負担の大きい 22 ヶ国における直接観察下治療 (Directly Observed Treatments DOTs) の拡大強制的分析も 2002 年 WHO に報告した。9 年間のデータが、症例の発見 (70%) と治療の成功 (85%) のための 2005 年の世界的な目標に向けての経過を評価するために使われている。

< GDF の直接調達機構によって高品質の TB 薬を買うこと >

Global Drug Facility (GDF、世界薬剤基金) が 2001 年に創設され、WHO が主催者を務めた。GDF の直接調達機構は、適格な政府とパートナーの組織に、低コストで高品質な薬の確実な出所を提供する。直接調達機構の目的は、DOTs の拡大を促進することである。薬品の規格化、まとめて大量に調達するシステム、国際的な競争入札、サプライヤーへの保証された報酬によって、GDF は 30% 以上の差で TB 薬の価格を下げてきた。

* GDF を使って TB 薬を購入する長所 : 競合する価格 (1 人の治療コストは 10US ドル)、強力な質の保証、規格化された薬剤処方、使いやすいパッケージ、短い調達時間、ウェブに基づく検索システム、年 1 回のモニタリング訪問、継続した専門的サポート

< インフルエンザの世界的流行前と流行中の公衆衛生優先的介入についての WHO 協議会、ジュネーブ、2004 年 3 月 16-18 日 >

インフルエンザの世界的流行は、その限られたヘルスケア資源と乏しい栄養状態のために、貧しい国への影響が最も重大であるだろうが、先進国・途上国のどちらにおいても重大な病気の負担とかなりの経済損失の原因となるであろう。できるだけ早く鳥インフルエンザの危機を把握し、それによって発生の見込みや新しい流行ウイルスの拡がりを縮小することが目下の重要な介入である。それには時間と世界的な努力を要するだろう。インフルエンザが世界的流行しそうな最初の段階での効果的な監視と焦点をしばったタイムリーな公衆衛生対策はウイルスの拡がりを遅くするかもしれない。WHO は優先的介入についてインフルエンザに関する全分野からの専門家が一堂に会する世界的な協議会を開催するだろう。協議会には以下の目的を持つ。

- ・アジアでの現在の鳥インフルエンザ流行に対する世界的反響の調査。
- ・インフルエンザ大流行前と流行中のワクチン使用結果と有効性と様々な利害関係者による優先的活動の特定。
- ・インフルエンザ大流行前と流行中の抗ウイルス新使用結果と有効性と様々な利害関係者による優先的活動の特定。
- ・インフルエンザウイルスの拡がりを遅くするための世界的な公衆衛生介入 (旅行勧告を含む) を行うことの影響と妥当性の再検討。
- ・ヒトの症例における傾向のモニタリングとインフルエンザ亜類型の変化を早く見つけることを含む、大流行前と流行中のヒトインフルエンザの監視に関する結果の再検討。

(高橋美紀、小平憲子、中園直樹)